

## 第三者評価結果の公表事項（児童養護施設）

### ①第三者評価機関名

一般財団法人社会的認証開発推進機構

### ②施設名等

名称： 児童養護施設 京都聖嬰会

種別： 児童養護施設

施設長氏名： 杉野 義人

定員： 55

所在地： 京都市北区衣笠西尊上院町22番地

T E L : 075-462-9268

### ③実施調査日

平成 26年 2月15日（土）

### ④総評

#### ◇特に評価が高い点

##### 心理的ケアのアプローチとケース会議等の実施

・心理的支援ができるよう臨床心理士を配置し、専用の部屋や設備を整え対応しています。臨床心理士は、施設との連携を密にしながら、必要に応じて直接支援を受ける体制にある状況を聞き取れます。また、スーパーバイザーを設定し、心理的支援が必要な子どもに対する職員の研修やスーパービジョンが行われている状況も聞き取れます。子どもたちの支援環境は、職員・ケース・主任会議他、各部会議（女・男子部、幼児部、調理場、給食部会、生活部会、行事部会等）他職種連携の中で「和」と「伝え合う」を大切にしながら円滑に構築・運営されています。

##### 主体性・自律性を尊重した日常生活

・学校のクラブ活動への参加、地域のサークル活動やレクリエーション、習い事等への参加は、主体性を尊重し、可能な限り希望に応えるよう取り組まれている状況が確認できます。訪問調査時も地域の野球チームの練習に参加するため、ユニフォーム姿で楽しそうに出かけていく入所児童の姿が大変印象的でした。塾や習い事等、希望しながら途中でやめてしまう場合等、財政面だけではなく複雑な子どもの心情に上手く寄り添うため、できるだけ個別の対応を重視し、「一人ひとりを共感的に理解・受容することにより、子どもたちの基本的信頼感が育つように関わる」という支援計画を如実に現場で実践されている状況が確認できます。

##### 基本理念や取組の重点を事業計画へ適切に反映

・「一キリストの教えに根ざして一児童一人ひとりをありのままに受け入れ、かけがえのない存在として一人ひとりと尊厳のうちに出会う」という施設の願いは、基本理念及び取組の重点に落とし込まれ、単年度の事業計画に明確に反映されています。「Ⅰ. 家族の再統合および構成を図る」「Ⅱ. 児童に対する指導・支援の充実を図る」からはじまり、年度行事予定を含む13項目に分けられた計画は、より具体的に年間を通じた養育・支援のあり方を表現されています。

多様な措置要因から養育・支援を受けている子どもたちが、施設内においては、安心して安全に日常生活を送り、子どもたちそれぞれの適応力に応じて成長できるよう、和やかに支援環境を整えておられる状況を見受けることができます。決して楽ではない就労状況の中においても、職員としての専門性を高めるよう研究及び計画されていることは、高く評価できます。

#### ◇改善が求められる点

##### ・規程・マニュアル等の整備の必要性

子どもたち一人ひとりを大切に、尊重した養育・支援を行うための基本理念を明示し、より具体的な支援内容を「取り組みの重点」に掲げ、共通した理解の中で養育・支援に取り組むための実践状況が見受けられますが、子どものプライバシー保護や子どもからの意見や苦情等に対応するための規程・マニュアル等の作成及び整備状況が確認できませんでした。

施設においてもすでに認識されている通り、子どもたちに対しては、施設として、「できることとできないこと」、その理由を丁寧に説明し、現場で行われている支援が、職員間でばらつきを出さないためにも、今後は、プライバシー保護や意見・苦情対応に関するものの他にも必要と考えられる規程・マニュアル等を作成・整備され、職員に対して理解を深めるための研修や周知方法に工夫いただき、規程・マニュアルに基づいて、養育・支援がこれまで以上に充実して行われるよう期待しています。

##### ・中・長期的なビジョンと計画の策定への期待

「全国児童養護施設協議会倫理綱領」を踏まえ、法人の基本的運営方針及び指導方針にもとづいて、適切に単年度ごとの事業方針が策定されている状況を確認することができます。その内容は、課題カテゴリー別に解決すべき内容がより具体的に示されているように見受けられます。ただし、課題・内容によっては、単年度で解決できるものではなく、複数年かけて、課題に向き合っていく必要のあるものもあるように見受けられます。近年（平成23年3月竣工）、大規模な施設改修が行われ、改修による移行計画に基づいて、養育が滞らないよう計画的に支援が行われてきた説明を聞くことができましたが、施設改修後においても中・長期的な視点において課題や問題点に取り組むべき計画書は確認できませんでした。

施設内の感染症拡大防止等に効果があったこと等、施設の改修（ハード面）で解決できた課題があったことも聞き取ることができましたが、改修後においても現状をベースにどのように養育・支援環境を充実させていくかに関しては、中・長期的な視点が必要になります。特にグループホームやファミリーホームを展開していくためには、人材育成や財政的な側面においても中・長期的な計画の中で意識的に進めていく必要性があります。法人及び職員全体での議論を重ねながら計画的に支援環境を構築されますことを期待しています。

#### ⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価を受診（受審）し、評価機関より専門的な目線で評価をしていただけたことで、当園の『良い点』と『改善が必要な点』が明確となりました。『改善が必要な点』の多くに共通していることは、マニュアルの整備が不十分な点でした。当園のスタイルとして、個々に応じた支援を提供できるよう取り組んでいることにより、“良い意味での曖昧さ”が生じ、ルールを明確にできない点が多く、そのことが、マニュアルの整備が不十分な点として評価されたのだと感じました。

マニュアル化が困難なものに関しては、支援の違いによる“ばらつき”が生じないよう、より丁寧な支援と共通認識を心がけ、さらなる職員の質の向上に努めていきたいと思えます。

その他にも、ご助言頂いた課題を“すぐに取り組める（短期）課題”“時間をかけて取り組む（中長期）課題”“継続して検討すべき課題”に仕分けし、取り組みを開始しています。

今後も、各施設が第三者評価を受診（受審）することにより、児童養護施設間の支援の標準化が進み、児童養護施設そのものを広く理解していただける機会になればと願います。

ありがとうございました。

## 第三者評価結果（児童養護施設）

### 1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	a
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>(特に評価が高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の基本理念を念頭に置き、子どもの成育歴や入所経緯等、月1回以上開催しているケース会議で把握・共有する機会が設けられている。また、施設内において野球の好きな子どもとキャッチボールをする等、子どもと職員と一緒にいる時間を大切に、日常的な関係性を重視することを通じて子どもの理解に努めている状況を見受けることができる。また、フロア会議等を通じて子どもたちの基本的欲求等を職員全員で共有できる取組みが実施されていることが確認できる。</li> </ul> <p>(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びに関する子どもの年齢別のプログラムは実施されているが、そのプログラムが子どもたちに合ったものかどうかを確認する仕組みはなく、不確かと認識されている。子どもたちの日々の遊びや学びのプログラム等が年齢や発達状況に応じたものとなっているか検証する機会を設け、プログラム提供がなされることが望まれる。</li> </ul>	
(2) 食生活	第三者 評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
(3) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4) 住生活	
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	

・衣服は、年齢に応じた着こなしをアドバイスするが、好みに合わせて、自分自身の選択で衣服を購入する機会も設けられていることが確認できた。また、子どもたちの靴も日増しに増えているため、下駄箱の増設も行い、大切なものは、子ども自身で整理整頓し所有感を持つように支援している状況を聞き取ることができた。

・子どもの居住区は個室ユニット制で、生活に応じた整理整頓ができる指導も行われていることが確認できる。また、洗濯等、身の回りのことは、小学生の高学年から子どもたちが行うよう取り組んでいるとの説明を聞くことができた。

(改善が求められる点)

・子どもの年齢やアレルギーのある子どもの状況を把握し、配慮した食事の提供等は実施されている状況は聞き取れるが、ユニットごとで、実施される少人数調理は、職員と子どもたちが実施しているため、栄養面を勘察した献立とすることに課題があると認識されている。食事の献立に偏りが生じないよう献立についてふり返る機会を設け、施設内の栄養士にもアドバイスを求める等の取組みが望まれる。

(5) 健康と安全		第三者 評価結果
①	発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
②	医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b
(6) 性に関する教育		
①	子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)  
 (特に評価が高い点)  
 ・ 幼児部で、夜尿がある子どもには防水シートを設える等、適切に就寝状況を把握し、必要な対策がとられている状況を聞き取ることができた。  
 ・ 浴場の利用は毎日可能で、学年が上がるにつれ、理美容については専門店を利用し、発達に配慮した取組み状況がうかがえた。

(改善が求められる点)  
 ・ 嘱託医との連携状況も聞き取ることができ、服薬が必要な子どもには、職員がカレンダーに薬を張り付け飲み忘れがないような工夫がされている状況は聞き取れる。しかし、バイタルチェックが必要な子どもやてんかんを起こす子どもについては、学習会を開催する等、職員間での連絡事項のみで終わらせずに職員全員が情報共有・学習できる場を設置することが望まれる。さらに子どもには、受診や服薬の必要性を説明し、理解を促しながらの取組みとなることが望まれる。  
 ・ 子どもたちの発達段階に応じた性についての指導は、どのように伝えていくか等の外部研修に参加しているとの説明はあったが、指導は職員、個々の判断で実施されている場合もあるとのことだった。施設全体での統一的なマニュアル作り等の取組みが期待される。

(7) 自己領域の確保	第三者 評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	a
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもたちの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) ・ 子どもたち、一人ひとりのアルバム(成長の記録)について、自分で管理できない子どもには職員が支援して、アルバムが作成されていることを確認した。 ・ 学校のクラブ活動への参加、地域のサークル、レクリエーションへの参加は、可能な限り認めるように努められており、施設訪問時も野球のユニホームを着て練習に向かう子どもの姿を見ることができる等、子どもたち個々の意思や活動は尊重されている状況がうかがえる。 ・ 子どもたちの金銭の自己管理については、職員との買い物で、計算を失敗しても、職員が支援しながら支払いを済ませている等、繰り返し金銭の使い方の支援を行うことで、子どもたちの社会性の向上につながる実践を行っている状況があることを確認をした。	

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	

(特に評価が高い点)

・進路の選択に当たっては、子どもたちと話す機会や場面をより多く設けている。大学進学のための、経済的な援助の仕組みとして奨学金制度の情報を提供し、活用できる可能性があることを子どもたちに奨励していることが確認できた。また、退所年齢になっても、自立した生活が難しい子どもたちに対しては、本人の意向を尊重した上で、措置の延長を行う等、能力に合わせた進路の指導・決定を行っていることが確認できた。

(改善が求められる点)

・忘れ物や宿題の未提出がないよう、前日に声かけを行い準備が整えられるように支援しているが、朝の慌ただしい状況の中で、忘れ物が出てしまうケースがあることを聞き取った。限られた職員体制のなかで難しい側面があることも想像できるが、繰り返し忘れ物をする子どもに対しては、チェック表を作成し、その状況を職員と共有する等、解決にむけた具体的な取組みが望まれる。

・施設とは異なる場での社会経験が積めるよう高校生にはアルバイトを奨励している。しかし、何らかの事情があり、アルバイトができない子どもたちには、職員が職場体験の場面を工夫すること等によって、より多くの社会経験を積むことができるよう取組まれることが望まれる。

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a

(11) 心理的ケア

(11) 心理的ケア	第三者 評価結果
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

・暴力・不適応行動に対しては、ケースカンファレンスを開催し、一人ひとりの子どものケースに沿った支援・把握をしている。また、職員は、子どもの暴力・不適応行動に対応する研修にも参加し、全職員の支援の質の向上を目指した取組み状況が確認できる。施設から出かけて帰って来ない子どもの対応策として、警察の生活相談課とも常に連携し、子どもたちの問題行動に対しても放置状態とならないよう安全面を重要視した対処状況があることを聞き取ることができた。

・心理的なケアの必要な子どもに対しては、臨床心理士に相談し、子どもに必要な支援を行うための体制や設備・環境があることが確認できた。また、職員に対して、専門家によるスーパービジョンが行われていることを聞き取ることができた。

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	a
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

・高校卒業や進学・就職等、措置期間が終了した場合でも、その子どもの生活状況が不安定であると判断される場合は、適切に措置延長を行い、自立するために必要な期間を設け、継続的な支援環境を提供しているとの状況を聞き取ることができた。

(改善が求められる点)

・子どもたちの退所後、施設側と一定のつながりがあることは聞き取れたが、退所後の状況を把握し、記録を残すという取組みは確認できなかった。退所後の状況や必要な場面があることを想定し、継続した記録を残すとともに、より充実したアフターケアに取り組みられることが望まれる。

## 2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	b
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) (改善が求められる点) ・現在、保護者を含めたケース会議等は実施されていないと説明があった。職員は、親子関係再構築に向けて積極的に取り組もうとする状況にある。今後、宿泊設備完成後、児童相談所と連携しながら、必要に応じて親子の関係を調整する支援が実施されていくことに期待したい。	

## 3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	

(特に評価が高い点)

- ・アセスメントの実施については、子ども一人ひとりに自立支援計画書を作成し、疾病及び障害を把握する等、現状と実態を把握している。また、記録様式の項目は国の動向や社会情勢に応じて年度毎に書き換えを行っている。
- ・アセスメントは10月と3月の年に2回、全体の見直しが図られるとともに日々のケースに応じて随時手直しがされている。より正確に記録すべく赤字にて日付と変更内容を直接記入していくことで、第三者が見てもより明確に把握できるよう工夫がなされている。

(改善が求められている点)

- ・児童相談所との連携はとれているが、施設で作成した自立支援計画書自体は提出しておらず、現況報告に留まっているため、今後、計画書の共有等の取組みに期待したい。
- ・子どもや保護者等に関する記録について、その保管、保存、破棄に関する規定が定められていなかった。子どもたちの健やかな育ちと安全の確保にむけて、大量の個人情報保有する必要があるため、しっかりとした文書規定を定めることが望まれる。



#### 4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	c
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>(特に評価が高い点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちを尊重した養育・支援は日々の活動の様子から積極的に実践されている。特に生活援助や日常会話等を通して、子どもの意向を汲み取り、実践に生かされていることがヒアリングや訪問調査時の支援風景から見受けることができた。</li> </ul> <p>(改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どものプライバシー保護についての規定・マニュアル等の整備が確認できなかった。子どものプライバシーに関することは日常的に生じるため早急の改善が求められる。</li> </ul>	
(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4) 権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	c
(6) 被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7) 他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

(特に評価が高い点)

- ・子どもたちが入所時に不安を抱くことがないように、温かな雰囲気の中で説明を行い、生活全般の様子や規則をどの子どもにも同じ手順でわかりやすく説明している。
- ・子どもの権利ノートを活用しながら、子ども自身が権利について正しく理解できるよう配慮している。
- ・食事のやりとりや日々の何気ない会話を通して、子どもたちの意見や要望を丁寧に聞き取ることができている。

(改善が求められる点)

- ・入所の説明や子どもの権利の理解、苦情解決等、しっかりとした説明と配慮がなされているが、入所の手順を定めた様式や、意見や苦情等に対する対応マニュアルは未整備とのことだった。第三者が客観的に文書等を閲覧して活動ができているかを判断していくこともあるため、今後は実践だけでなく、文書やマニュアルを整備されることを期待したい。

## 5 事故防止と安全対策

	第三者 評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	b
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	b
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b

(特に評価が高い点)

- ・国や京都市から配布された事故防止に関するマニュアルはファイリングされ、職員間で閲覧できるようになっている。
- ・ライフラインの断絶などの災害時に備え、食料や備品類などの備蓄とリスト化がなされている。

(改善が求められる点)

- ・子どもの安全を脅かす事例等を各職員が収集し、情報を日常的に共有していく等、意識の高さが伺えるが、それらをマニュアル化するまでには至っていないとのことなので今後の整備が期待される。

## 6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携	第三者 評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2) 地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	b
(3) 地域支援	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b

② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。

c

(特に評価が高い点)

- ・地域の多様な社会資源をリスト化し、職員室等にも連絡網が貼付されている状況が確認できる他、京都市の社会福祉協議会や北区社会福祉協議会、京都児童養護施設長会、全国児童養護施設協議会近畿ブロックといった各種機関・団体とも連携を図り、施設長が率先してネットワーク化を図っている。
- ・地域に向けて施設主催の「聖嬰会まつり」を開催し、バザー等に地域住民の参加を呼び掛けを行い、地域との交流を図っている。

(改善が求められる点)

- ・地域向けのイベント開催時にイベントの案内をされていると説明を受けたが、それだけに留まらず、定期的な広報物を作成・配布する等、情報の発信による、より地域に密着した活動の取組みが望まれる。

## 7 職員の資質向上

	第三者 評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	c
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	a
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>(特に評価が高い点)</p> <p>・外部研修を含め、多様な研修に職員が参加し、参加後は適切に報告がなされ、組織として共有されている状況がうかがえる。施設長・主任を中心にスーパーバイズができる体制にあり、チームワークを大切にしながら支援が行われている状況が確認できる。</p> <p>(改善が求められる点)</p> <p>・組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されたものは、確認できなかった。また、職員一人ひとりの個別研修計画の策定についても取組みが望まれる。</p>	

## 8 施設の運営

	第三者 評価結果
(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	c
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	

(特に評価が高い点)

・施設の目的や基本理念・取組みの重点がパンフレットやホームページ等に適切に明文化されている。また、法人の存在意義や趣旨・児童福祉法に基づく豊かな養育支援を行う内容となっており、職員の行動規範となるよう具体的に示されていることが確認できる。

・単年度事業計画は、事業所が掲げる「取組の重点」を具現化するために、「I. 家族の再統合および構成を図る」等、骨子となる柱立てを行い具体的な内容を明記することで、計画の内容が分かりやすく示されている。計画の策定は、会議等を通じて全職員や子どもたちの意見が反映される仕組みの中で、適切に策定されている状況を聞き取ることができた。

(改善が求められる点)

・障害のある子どもに対する周知の工夫や保護者への説明方法については、事業所としても課題認識を持たれており、今後具体的な取組みが望まれる。

・中・長期的な計画書の策定は確認できなかった。施設改修が行われ、一定落ち着いた状況にあるように見受けられるが、組織や人員体制、人材育成等、中・長期的な計画を策定され、課題に向き合い解決されていかれることに期待が寄せられる。

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	b
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	b
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a

(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  (改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設長の位置づけや各支援部の構成、委員会・会議や苦情解決担当者等を明確にした組織図は確認できるが、職制や役割等を客観的に分かりやすく文書化したものは確認できなかった。具体的な役割や分掌を整理することで、より組織的・機能的な運営に取り組まれることに期待したい。</li> <li>社会的養護の動向や潜在的に支援が必要な子どもたちの置かれている社会的環境を把握し、施設を運営するうえで経営的な側面からの利用率の分析等は行われているが、現況や課題解決・改善にむけて、中・長期的な視点で反映するような取組みは確認できなかった。また、外部の専門家による監査をに基づいた運営改善に取り組まれている状況は確認できなかった。</li> </ul>	

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	b
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  (改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法律に準拠して必要な人員配置を行っているが、施設のこれからを担う人材体制に対する具体的なプランは確認できなかった。養育・支援環境の向上にむけてプランを策定されるとともに、適切な人事考課を行うことで、より客観性・透明性の高い実践現場の構築を推進されることに期待したい。</li> <li>実習生の受入れは行われているが、受入れに関する意義・方針等、明文化されたものは確認できなかった。次世代人材育成の必要性や投資的役割等を明文化し、職員等実践現場と共有を図ることで、より充実した受入れ体制による学びの場を提供されることが望まれる。</li> </ul>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	c
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	c
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点)	

(改善が求められる点)

・組織として、支援方法に差が出ないように共通認識に基づいて、合意形成を図りながら支援を行っているが、標準的な実施方法を文書化し、その実施方法の周知・共有に基づいて支援が行われている状況は確認できなかった。今後は、標準的な実施方法についてマニュアル等を整備する中で、プライバシー保護の姿勢や個別子どもの状態に応じた支援が柔軟に行える環境を整備されることに期待したい。